

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	皇學館大学
設置者名	学校法人皇學館

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通科目	学部等 共通科目	専門科目	合計		
文学部	神道学科	夜・通信	16			16	13	
	国文学科	夜・通信				16	13	
	国史学科	夜・通信				16	13	
	コミュニケーション学科	夜・通信				16	13	
教育学部	教育学科	夜・通信				16	13	
現代日本社会学部	現代日本社会学科	夜・通信				16	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.kogakkan-u.ac.jp/about/pdf/disclosure/listOfCouseSubject.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	皇學館大学
設置者名	学校法人皇學館

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.kogakkan-u.ac.jp/about/pdf/disclosure/yakuinmeibo_r07.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	神宮少宮司	7年度定時評議員会終結時 ～ 11年度定時評議員会終結時	法人の業務執行の判断。 運営の適正性・公共性を 高める役割。
非常勤	熱田神宮宮司	7年度定時評議員会終結時 ～ 11年度定時評議員会終結時	法人の業務執行の判断。 運営の適正性・公共性を 高める役割。
非常勤	宗像大社宮司	7年度定時評議員会終結時 ～ 11年度定時評議員会終結時	法人の業務執行の判断。 運営の適正性・公共性を 高める役割。
非常勤	大神神社宮司	7年度定時評議員会終結時 ～ 11年度定時評議員会終結時	法人の業務執行の判断。 運営の適正性・公共性を 高める役割。
非常勤	株式会社赤福顧問	7年度定時評議員会終結時 ～ 11年度定時評議員会終結時	法人の業務執行の判断。 運営の適正性・公共性を 高める役割。
非常勤	伊勢市市長	7年度定時評議員会終結時 ～ 11年度定時評議員会終結時	法人の業務執行の判断。 運営の適正性・公共性を 高める役割。
非常勤	伊勢商工会議所 会頭	7年度定時評議員会終結時 ～ 11年度定時評議員会終結時	法人の業務執行の判断。 運営の適正性・公共性を 高める役割。
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	皇學館大学
設置者名	学校法人皇學館

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 『シラバス作成要領』 シラバス作成要領において、授業目的、授業内容(事前・事後学習を含めた授業回数分の授業計画)、到達目標(卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連性)、授業形態(課題に対するフィードバックの方法等)、成績評価の方法、成績評価の基準、履修上の注意等について、当該年度に授業を担当し、シラバスを作成するすべての教員に明記することを求めている。加えて毎年12月の全学教授会時にも口頭で説明している。 授業担当教員が作成したシラバス記載内容における適切性について、担当教員以外の第三者(教育開発センター)がチェックし、3月末には大学ホームページで公表している。 『授業科目のシラバス』 https://univision.kogakkan-u.ac.jp/syllabus/ 『実務経験のある教員による授業科目の一覧』 https://www.kogakkan-u.ac.jp/about/pdf/disclosure/listOfCouseSubject.pdf 『履修要項』『講義概要』 履修要項において、公式ホームページからシラバスを検索する方法を紹介し、シラバスの活用を推進している。新入生については、シラバスを抜粋した講義概要を作成し、履修指導及び初年次ゼミにおいて、シラバスを活用するように促している。 https://www.kogakkan-u.ac.jp/support/rishu.php	
授業計画書の公表方法	https://univision.kogakkan-u.ac.jp/syllabus/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 『皇學館大学授業科目履修規程』 皇學館大学授業科目履修規程において、履修、成績評価、単位の認定、卒業・進級要件、他学部・他学科授業科目の履修等を規程化し、これに基づき、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定している。 https://www.kogakkan-u.ac.jp/support/rishu.php 『授業科目のシラバス一覧』 シラバスに記載された成績評価の方法・基準のとおり、各授業科目の学修成果の評価を行い、厳格かつ適正に単位授与又は履修認定を実施している。 https://univision.kogakkan-u.ac.jp/syllabus/	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

『皇學館大学ディプロマ・ポリシー』

卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を大学・学部・学科毎に定め、公式ホームページ、履修要項で公表している。

<https://www.kogakkan-u.ac.jp/about/policy.php>

<https://www.kogakkan-u.ac.jp/support/rishu.php>

『皇學館大学授業科目履修規程』

皇學館大学授業科目履修規程において、履修、成績評価、単位の認定、卒業・進級要件、他学部・他学科授業科目の履修等を規程化し、これに基づき、厳格かつ適正に単位授与又は履修認定を実施し、卒業判定している。

<https://www.kogakkan-u.ac.jp/support/rishu.php>

『学修成果の評価の方針(アセスメント・ポリシー)』

ディプロマ、カリキュラム、アドミッションの3つのポリシーに基づき、大学全体レベル(機関レベル)、学部・研究科レベル(教育課程レベル・授業科目レベル)の2段階で、学修成果を検証している。

<https://www.kogakkan-u.ac.jp/support/rishu.php>

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<https://www.kogakkan-u.ac.jp/about/policy.php>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	皇學館大学
設置者名	学校法人皇學館

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kogakkan-u.ac.jp/about/pdf/disclosure/01-1zjwk.pdf#page=13
収支計算書又は損益計算書	https://www.kogakkan-u.ac.jp/about/pdf/disclosure/01-1zjwk.pdf#page=2
財産目録	https://www.kogakkan-u.ac.jp/about/pdf/disclosure/01-1zjwk.pdf#page=20
事業報告書	https://www.kogakkan-u.ac.jp/cms/assets/files/md7492_1.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.kogakkan-u.ac.jp/about/pdf/disclosure/01-1zjwk.pdf#page=21

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:令和7年度事業計画 対象年度:令和7年度)
公表方法: https://www.kogakkan-u.ac.jp/cms/assets/files/md7379_1.pdf
中長期計画(名称:将来ビジョン150・第3期中期行動計画(前期)対象年度:令和7~10年度)
公表方法: https://www.kogakkan-u.ac.jp/about/pdf/disclosure/vision_r07-10.pdf?250514

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.kogakkan-u.ac.jp/about/pdf/juaa/evaluation_r05.pdf
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.kogakkan-u.ac.jp/about/juaa.php

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部 神道学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.kogakkan-u.ac.jp/about/policy.php ）
（概要） 神道学科では、大学の目的（学則第 1 条）、文学部の教育研究上の目的（同第 3 条の 2）に加えて、以下の目的（同第 3 条の 2）を定めています。 日本人が守り伝えた民族固有の信仰であり日本文化の根源である神道を、祭祀学・古典研究・神道史学・神道思想・宗教学などの分野を通して教育・研究するとともに、将来、現代社会の諸課題に真摯に対応できる神職をはじめ、各界において指導的な役割を果たす人材を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法： https://www.kogakkan-u.ac.jp/about/policy.php ）
（概要） 神道学科では、大学全体（学部全体）の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に加えて、以下の方針を定めています。 1. 神道の祭祀・古典・歴史・思想について幅広い知識を身につけて、日本の伝統的な神観念・人間観・世界観を理解し説明できる。 2. 日本の歴史・伝統・文化について理解を深め、その特質を説明できる。 3. 神社祭祀の概要を理解し、皇室・神宮・神社の祭祀について、その歴史や意義を説明できる。 4. 宗教学の基礎を身につけ、宗教史をふまえて日本の宗教事情や神道と諸宗教を比較し、的確に説明できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法： https://www.kogakkan-u.ac.jp/about/policy.php ）
（概要） 神道学科では、大学全体（学部全体）の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に加えて、以下の方針を定めています。 【1】教育内容については、次のとおり定める。 1. 祭祀学・古典研究・神道史学・神道思想・宗教学の分野ごとに科目を設置する。 2. 各分野に関する基礎的・体系的な知識を段階的に修得するため、概論的科目を 1～6 セメスターに配置する。 3. 関連諸文献の読解力をさらに高め、専門的研究方法と知識を身につけるため、1～6 セメスターで「講義」科目と「講読」科目を学び、3～4 セメスターの「基礎演習」科目と、5～8 セメスターの「演習」科目に接続する。 4. 神道・宗教文化コースを置き、5 セメスターより、各演習（ゼミ）を選択する。演習は、祭祀学・古典研究・神道史学・神道思想・宗教学の観点から専門的な学びをより深める。 5. 修学の集大成として、各自のテーマを定めて調査・研究・実習等を行い、個別指導のもとに卒業論文を作成する。また、専門科目の学修を通して、皇室・神宮・神社に関する精確な知識を学ぶと共に、皇室・神宮・神社を敬う精神を育む。 6. 神職課程では、「祭式及び同行事作法」や「神務実習」等の所定単位を履修し、祭祀の斎行及び神社の管理・運営に必要な技能・知識を修得する。 【2】教育方法については、次のとおり定める。 1. 講義形式の他、アクティブ・ラーニング（主体的学修）や PBL（問題発見解決

型学修)を教育方法として実施する。
2. 各科目の評価は、大学全体としての共通の評価方針(アセスメント・ポリシー)に従って行う。また、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に基づいて、厳格な卒業認定を行う。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.kogakkan-u.ac.jp/about/policy.php) (概要) 神道学科では、大学全体(学部全体)の入学受入れの方針(アドミッション・ポリシー)に加えて、以下の方針を定めています。 1. 神道・神社に興味を持ち、それを学びたいと考えている。 2. 雅楽・神楽等日本文化の歴史と伝統を理解し、後世に伝えたいと思っている。 3. 神職を志す強い信念を持ち、祭作法等の技能の修得を目指している。 4. 高校時代に学んだ日本の古典や歴史・文化に関する知識を、さらに深めたいと考えている。 5. 世界の宗教・神話を学びたいと思っている。

学部等名 文学部 国文学科
教育研究上の目的(公表方法：https://www.kogakkan-u.ac.jp/about/policy.php) (概要) 国文学科では、大学の目的(学則第1条)、文学部の教育研究上の目的(同第3条の2)に加えて、以下の目的(同第3条の2)を定めています。 日本文化の中核を成す国語と国文学を教育・研究することにより、豊かな感受性、柔軟な思考力、的確な表現力を身につけ、日本文化の担い手としての自覚を有しつつ、現代社会の諸課題にも積極的に対処し得る自立した人間を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.kogakkan-u.ac.jp/about/policy.php) (概要) 国文学科では、大学全体(学部全体)の卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に加えて、以下の方針を定めています 1. 国語と国文学及びその関連分野の基礎的な知識をもち、説明することができる。 2. 文学作品及び関連する資料を読解することができる。 3. 国語と国文学及びその関連分野において、自ら課題を発見しそれを調査・考察し、論理的に表現することができる。 4. 書道、漢文学や図書館学に関する知識を有し、その技術を使うことができる。 5. 国語と国文学及びその関連分野の学修を通じて、人間の営みと日本の文化に対する関心を持ち、地域や現代社会の諸課題にも対処しようとする意欲を有している。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kogakkan-u.ac.jp/about/policy.php) (概要) 国文学科では、大学全体(学部全体)の教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)に加えて、以下の方針を定めています。 【1】教育内容については、次のとおり定める。 1. 専門科目に関して1年次(1・2セメスター)を導入、2年次(3・4セメスター)を基礎、3年次(5・6セメスター)を発展、4年次(7・8セメスター)を応用と位置づけ、段階的かつ有機的な学修を展開する。 2. 国文学(古典文学・近代文学)、国語学、漢文学、書道、図書館学の各分野に

科目を設置し、幅広い学力を身につけることができるようにする。さらに、履修モデルとして「国語学・国文学コース」「国語教育コース（中高教員）」「書道・漢文学コース」「図書館司書コース」を設置する。 3. 各分野の概要を述べる概論的科目は、国語・国文学に関する基礎的かつ体系的な知識を、具体的な作品読解力の進展に応じて修得できるようにするために、1～4セメスターに分散して配置する。 4. 2・3セメスターに文献読解の技術を学ぶ講読科目、4・5セメスターに研究の対象に関する知識と方法を学ぶ講義科目、5～8セメスターに研究を実践する演習科目を段階的に設置する。 5. 大学における学修の集大成としての卒業論文作成を課す。自ら課題を発見して、それについての調査・考察を行い、論理的な文章としてまとめることができるように指導を行う。 【2】教育方法については、次のとおり定める。 1. 大学全体の方針に沿い、講義形式の他、アクティブ・ラーニング（学生の能動的な学修への参加を取り入れた学修方法）やPBL（「課題解決型学修」「問題解決型学修」）も取り入れた教育方法も実施する。 2. 個別の科目では、大学全体の方針に沿って評価する。卒業論文においては「卒業論文の評価基準」（国文学科）に則って客観的に評価する。 3. 国語・書道の中学校・高等学校教員や図書館司書・司書教諭の資格取得に必要な科目を、適宜国文学科の専門科目として配置し、その分野の専門職業人としての実践に役立つ指導を行う。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法：https://www.kogakkan-u.ac.jp/about/policy.php）
（概要） 国文学科では、大学全体（学部全体）の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）に加えて、以下の方針を定めています。 1. 日本のことばと文学に対して興味をもち、それを学ぼうとする強い意欲を有している。 2. 自らの考えを日本語でわかりやすく表現することができる。 3. 国文学を学ぶ上で基本となる教科「国語」のうち、「現代の国語」「言語文化」「倫理国語」「古典探究」の科目を履修、もしくは同等の学力を有している。

学部等名 文学部 国史学科
教育研究上の目的（公表方法：https://www.kogakkan-u.ac.jp/about/policy.php）
（概要） 国史学科では、大学の目的（学則第1条）、文学部の教育研究上の目的（同第3条の2）に加えて、以下の目的（同第3条の2）を定めています。 日本の歴史と伝統に根ざした祖国愛の精神を基軸とし、史料主義・原典主義にたち、バランスのとれた中正な歴史認識を確立することによって、多様な現代社会を、日本人として冷静に読み解き、将来を展望する見識ある人材を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.kogakkan-u.ac.jp/about/policy.php）

(概要) 国史学科では、大学全体（学部全体）の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に加えて、以下の方針を定めています。 1. わが国の歴史の流れや、伝統や文化の特質を説明することができる。 2. 歴史学の特質と現状について理解し、歴史研究の意義を伝えることができる。 3. 史料の厳密な読解、資料の分析によって歴史事実を考証し、バランスのとれた中正な歴史認識をもつことができる。 4. 多様な現代社会を、日本人として冷静に読み解くことができる。 5. 史料や資料の収集・整理をし、これらを保存・活用していくことができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.kogakkan-u.ac.jp/about/policy.php）
(概要) 国史学科では、大学全体（学部全体）の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に加えて、以下の方針を定めています。 【1】教育内容については、次のとおり定める。 1. 古代史・中世史・近世史・近現代史の4区分に基づいた時代別の科目、および東洋史をはじめとする分野別の科目に、関連諸学問の科目も、あわせて設置する。 2. 1～4セメスターに「概説」科目、5・6セメスターに「特講」科目を配置し、歴史学に関する基礎的、かつ体系的な知識を幅広く修得し、歴史を多角的な視点から捉えることができるようにする 3. 1～4セメスターに「講読」科目、5～8セメスターに「演習」科目を配置し、段階的に史料を読解する力を養い、実証的な研究方法を身につけることができるようにする。 4. 6セメスターまでの勉学の集大成として、7・8セメスターに卒業論文作成を課し、みずから課題を発見し、それについての調査・研究を行い、論理的な文章としてまとめることができるよう、個別に指導を行う。 【2】教育方法については、次のとおり定める。 1. 大学全体の方針に沿い、講義形式、演習形式などの他、アクティブ・ラーニング(主体的学修)を取り入れた教育方法も実施する。 2. 個別の科目では、大学全体の方針に沿って評価する。卒業論文は、学術論文としての評価に耐えうるかを基準として、客観的に評価する 3. 高校の地理歴史・公民、中学校の社会などの教員、博物館学芸員・図書館司書などの資格取得に必要な科目のうち、歴史学の分野に含まれるものを、国史学の専門科目として配置し、その分野の専門職業人としての実践に役立つ指導を行う。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法：https://www.kogakkan-u.ac.jp/about/policy.php）
(概要) 国史学科では、大学全体（学部全体）の入学受入れの方針（アドミッション・ポリシー）に加えて、以下の方針を定めています。 1. わが国の歴史や文化に関心を持ち、それらを学ぼうとする強い意欲をもっている。 2. 史料や文化財の価値を見出し、それらを後世に伝えていきたいという意欲をもっている。 3. わが国の伝統・文化を理解し、祖国愛の精神にもとづいて、国家・社会で活躍しようとする意欲をもっている。 4. 物事を論理的に考えることができ、また、自分の考えをわかりやすく表現でき

る。
5. 高等学校で履修した主要科目・教科について基礎的な知識をもち、特に日本史、または世界史に関する科目を履修しているか、それと同等の学力をもっている。

学部等名 文学部 コミュニケーション学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.kogakkan-u.ac.jp/about/policy.php ）
（概要） コミュニケーション学科では、大学の目的（学則第1条）、文学部の教育研究上の目的（同第3条の2）に加えて、以下の目的（同第3条の2）を定めています。 「英語」、「心理学」、「情報学」の3分野の教育・研究を通じて、日本の文化や社会を広く世界に発信し、英語教育や国際的なビジネス、こころと行動のメカニズムの解明、情報社会に貢献できる人材を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.kogakkan-u.ac.jp/about/policy.php） （概要） コミュニケーション学科では、大学全体（学部全体）の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に加えて、以下の方針を定めています。 1. 英語、心理学、情報についての幅広い知識・技能を身につけて、学んだ内容を自分の言葉で説明することができる。 2. 他者の異なる意見や他から得た情報を客観的に判断して自らの考えを論理的に整理し、他者が理解できるように文章や発話によって表現することができる。 3. 英語、心理学、情報についての知識や技能を活用し、問題解決に主体的に取り組み、個人や社会の多様性を尊重して対応することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.kogakkan-u.ac.jp/about/policy.php） （概要） コミュニケーション学科では、大学全体（学部全体）の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に加えて、以下の方針を定めています。 【1】教育内容については、次のとおり定める。 1. 履修モデルとして、「英語コミュニケーションコース」、「英語教育コース（中高教員）」、「心理学コース」、「情報コース」を設置する。 2. 1・2セメスターには、各分野の基本的知識を修得するための概論的科目を設置する。3セメスター以降には専門科目を段階的に配置し、体系的な専門知識、研究方法、社会生活で必要とされる実践力の修得をめざす。 3. 英語コミュニケーションコースおよび英語教育コース（中高教員）では、基礎的な英語運用能力の向上を図るための科目を1・2セメスターに配置する。3セメスター以降では、中等教育や国際的なビジネスで必要とされる実践的な英語運用能力を身につける。さらに、日本の歴史と文化を英語で発信する能力の修得をめざす。 4. 心理学コースでは、心理学諸分野の基礎知識を学び、社会生活と心理学のかかわりについて考える科目を1・2セメスターに配置する。3セメスター以降では、人間の心理と行動を理解するために必要な専門的知識を深め、心理測定技能とデータ分析能力の修得をめざす。 5. 情報コースでは、データサイエンスやウェブサイト構築に関する基礎知識を1・2セメスターで身につける。3セメスター以降は、データ分析とプログラミング関連知識を深め、高度な情報収集・加工・分析・発信能力の修得をめざす。 6. 7・8セメスターでは、大学における学びの集大成として自らが設定した研究

課題に取り組み、個別指導のもとで卒業論文（卒業研究）にまとめる。 【2】教育方法については、次のとおり定める。 1. 英語コミュニケーションコースおよび英語教育コース（中高教員）では、英語による双方向対話型授業、課題解決型学修を導入し、実践的な英語運用力と英語教育力の向上につとめる。海外英語研修も積極的に活用する。 2. 心理学コースでは、グループワークを中心に据えた授業において、実験、調査、検査などの実習を繰り返し、実証的研究を行うために必要な測定技能とデータ分析能力の向上につとめる。 3. 情報コースでは、プログラミングとデータ分析を系統的に学び、身近な事例を対象とした情報を収集・加工・分析・表現することによって、高度情報社会で通用する情報運用能力の向上につとめる。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法：https://www.kogakkan-u.ac.jp/about/policy.php）
（概要） コミュニケーション学科では、大学全体（学部全体）の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）に加えて、以下の方針を定めています。 1. 英語運用能力と国際的教養を身につけ、教育現場や国際交流の場面で活躍したいという意欲を有している。 2. 人間の心理と行動に関心を抱き、心の健康や他者支援について学び、地域・職場・家庭での生活に役立てたいと考えている。 3. 地元地域への貢献に意欲をもち、情報通信技術とデータ分析力を身につけ、情報通信技術の活用方法について学びたいと考えている。

学部等名 教育学部 教育学科
教育研究上の目的（公表方法：https://www.kogakkan-u.ac.jp/about/policy.php）
（概要） 教育学部・教育学科では、大学の目的（学則第1条）に加えて、以下の目的（同第3条の2）を定めています。 日本の伝統と文化に根ざした豊かな人間性を備え、教育諸科学に係る専門的知識や技能を活用して、現代の教育課題の解決に向けて実践的に即応する能力を有する人材を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.kogakkan-u.ac.jp/about/policy.php） 本学部・学科は、その教育目的を達成するために、大学全体の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に加えて、次のような人材の育成を方針として定めています。 1. 教育に関する確かな知識やそれを伝える豊かな表現力を持ち、激しく変化していく社会の教育課題に的確に対応できる高い技術を身につける。 2. 子どもの心身の成長を支え、さまざまな課題を発見し、その問題を主体的・積極的に工夫し、解決する能力を身につける。 3. 日本の歴史と伝統そして文化に立脚した広い視野を持つと同時に、それとは異なる歴史や伝統、文化を持つさまざまな世界を尊重しながら未来を創造していく教育に関心を持つ資質を身につける。 4. 教員としての使命感や責任感を持ち、多様な他者と協働しながら目標に向かい、よりよい社会の実現に寄与することができる。 5. 高い志、公正な態度、広い視野、柔軟な思考等、教員としてふさわしい人格を身につけ、子どもに知育・徳育・体育の指導を適切にバランスよく行うことができる。 6. 教育学及びその関連分野において、自ら課題を発見しそれを探究し、論理的に表現することができる。

7. 以上の目標に加え、各コースにおいて身につける資質・能力は以下の通りである。 ・初等教育コースでは、小学校教育に即応した学習内容の追究と各教科の指導法を修得し、教科毎に授業が展開できるとともに、個々の発育発達に応じた対応ができる。 ・幼児教育コースでは、保育・教育の理論と実践的な保育技術を修得し、適切な乳幼児理解の下、感受性豊かな好奇心に富んだ子どもを育てる保育ができる ・保健体育コースでは、体育やスポーツ、健康に関する科学的理論と実践を融合させ、個々に応じた保健体育の授業ができる。 ・数理教育コースでは、数学・理科教育に関する諸概念を、高い専門性と理論性をもとに学び、諸問題を主体的・発見的に探究し、多角的に分析・解決する力と発展・統合する力を身につけることができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kogakkan-u.ac.jp/about/policy.php)
本学部・学科は、そのディプロマ・ポリシーを実現するために、全学的なカリキュラム・ポリシーに加えて、以下の学部独自のカリキュラム・ポリシーを定めています。 【1】教育内容については、次のとおり定める。 1. 専門科目については、導入、基礎、発展、応用の4領域別に4つのコースに必要な科目をそれぞれ設置する。 2. 1・2セメスターでは主に教育学に関する概論を、3～6セメスターでは教育学の本質や方法論、各教科内容の研究と実践または実技を、各コースの違いに応じて系統的に修得できるようにする。7・8セメスターではさらに、それぞれの関心に従って、専門的な学力を身につける。 3. 当該セメスターにおける各種の教育・保育実習の経験や、また正課外の学校ボランティア等の体験学修プログラムを通して、実際の教育現場の取り組みを知り、子どもとの関係を切り結ぶことにより、将来教員になるためのモチベーションや実践力、対応力を高める。 4. 7・8セメスターでは、6セメスターまでの学修の集大成として卒業研究を課し、自らの関心に従って課題を設定し、問題を客観的に分析・解決することができるよう、ゼミを単位とした個別のおよび集団的学修の中で、卒業論文を完成させる。 【2】教育方法については、次のとおり定める。 1. 4領域に配置された4つのコースに必要な科目特性を考慮し、学生の主体的な学修を引き出すことができる教育方法を導入する。 2. 教育の方法として、少人数によるグループ・ワークや討論等を導入し、アクティブ・ラーニングの視点に立った主体的・対話的で深い学びの学修を進め、将来の教員に求められる資質・能力を開発していく。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.kogakkan-u.ac.jp/about/policy.php)
(概要) 本学部・学科では、全学のアドミッション・ポリシーに加えて、ディプロマ・ポリシーにふさわしい入学者として、以下のような人物を求めています。 1. 子どもを愛し、1人1人の子どもが持つ個性や能力及び人間性を育てていくことに喜びを感じ、それに対する強い使命感を有している。 2. 日本の歴史と伝統そして文化を尊重し、それを子どもに継承していくとともに、新しい知識・技能を柔軟に取り入れ、応用して活用することができる。 3. 教育や保育に関する学修に目的意識を持ち、社会に参画し貢献しようとする強い意欲を有している。 4. 卒業後、初等教育コース入学者は小学校の教員、幼児教育コース入学者は乳幼児教育・保育・福祉関係職員、保健体育コース入学者は中学校・高等学校の保健体育教員、数理教育コース入学者は中学校・高等学校の数学・理科教員、または数理能力を生かした専門職に就く強い意志を有している。

学部等名 現代日本社会学部 現代日本社会学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.kogakkan-u.ac.jp/about/policy.php ）
（概要） 現代日本社会学部・現代日本社会学科では、大学の目的（学則第1条）に加えて、以下の目的（同第3条の2）を定めています。 「経営革新」「地域創生」「福祉展開」という3コースの教育を通じて、現代日本の各領域においてリーダーとして貢献できる人材を養成する。その人材像を具体的に言えば、諸課題に対して、確固とした倫理観に基づいて、主体的に、現代日本の特徴を理解し、洞察力、コミュニケーション力、実践力、応用力を駆使して、創造的に対処できる幅広い職業人である。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法： https://www.kogakkan-u.ac.jp/about/policy.php ）
（概要） 本学部・学科は、その教育目的を達成するために、大学全体の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に加えて、次のような人材の育成を方針として定めています。 1. 現代日本の「経営革新」「地域創生」「福祉展開」の3コースについて、基礎的な知識を身につけ、日本の課題を概説できる。 2. 3コースのいずれかについての専門的な知識を修得し、当該分野に関する日本の課題を論じることができる。 3. 現代日本における自らが選択した課題の意義を説明し、解決に向けた方策を考えることができる。 4. 日本の伝統文化に関わる領域で、基本的な作法・技能を体験し、身につけ、その情報を発信できる。 5. 諸課題に対して、リーダーとして貢献できるだけの倫理観、洞察力、コミュニケーション力、実践力、応用力を有し、制約された条件下においても、その能力を創造的に駆使できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法： https://www.kogakkan-u.ac.jp/about/policy.php ）
本学部・学科は、そのディプロマ・ポリシーを実現するために、各段階の教育において課題を「乗り越える」体験を積むことをめざして、全学的なカリキュラム・ポリシーに加えて、以下の学部独自のカリキュラム・ポリシーを定めています。 【1】教育内容については、次のとおり定める。 1. 課題解決能力を養う基礎を固めるために、現代日本の諸課題とリーダーシップを学ぶ基礎科目を置く。 2. 3コースに通底する現代日本の課題と特徴を学ぶために基幹科目を置く。 3. 3コースのいずれかについて、当該領域および周辺・関連領域の専門知識を修得するために展開科目を置く。 4. 倫理観、洞察力、コミュニケーション力、実践力、応用力の修得・向上を図るために実習科目を置く。 5. 基礎科目、基幹科目、展開科目、実習科目での学びを、段階的に統合するために、全セメスターを通じて演習科目を置く。 6. 特に「展開科目」に公務員試験対応の科目を置く。 7. 自ら選択した現代日本の課題の意義を説明し、解決に向けた方策を考え、効果的に提示できるようにするために卒業研究を置く。 【2】教育方法については、次のとおり定める。 1. 大学全体の方針に沿い、講義形式の他、アクティブ・ラーニング（学生の能動的な学修への参加を取り入れた学修方法）やPBL（課題発見・解決型学修）を取り入れた教育方法も実施する。 2. 個別の科目では、大学全体としての共通の評価方針（アセスメント・ポリシー）に

従って評価する。また、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づいて、厳格な卒業認定を行う。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法：https://www.kogakkan-u.ac.jp/about/policy.php） （概要） 本学部・学科では、全学のアドミッション・ポリシーに加えて、ディプロマ・ポリシーにふさわしい入学者として、以下のような人物を求めています。 1. 現代日本の諸課題に対し、主体的・創造的に対応しようとする意欲を有している。 2. 国民の生活を支えるために公共機関で働きたいと考えている。 3. 民間企業で働いたり、事業を起こしたりすることを通じて、地域活性化に貢献したいと考えている。 4. 福祉関係の職に就いて援助を必要としている人を支援したいと考えている。 5. 日本の伝統文化を継承・発展・発信したいと考えている。 6. 「学びを人生や社会に生かそうとする志」「生きて働く知識技能を修得しようとする意欲」「未知の状況にも対応できる能力を身につけたいとの願い」を持っている。この「志」「意欲」「願い」を特に重視する。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法： https://www.kogakkan-u.ac.jp/about/organization.php

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	1 人	－					1 人
文学部	－	19 人	11 人	0 人	4 人	0 人	34 人
教育学部	－	11 人	13 人	0 人	2 人	1 人	27 人
現代日本社会学部	－	7 人	6 人	0 人	0 人	0 人	13 人
大学院	－	2 人	0 人	0 人	0 人	0 人	2 人
附置研究所	－	1 人	5 人	0 人	1 人	1 人	8 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		134 人					134 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://www.kogakkan-u.ac.jp/about/professor.php					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
皇學館大学 F D 実施方針及び実施計画により年度ごとに実施している。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	300 人	269 人	89.7%	1200 人	1074 人	89.5%	若干名 人	2 人
教育学部	200 人	197 人	98.5%	800 人	850 人	106.3%	若干名 人	1 人
現代日本社会学部	120 人	121 人	100.8%	480 人	493 人	102.7%	若干名 人	2 人
合計	620 人	587 人	94.7%	2480 人	2417 人	97.5%	若干名 人	5 人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	321 人 (100%)	8 人 (2.5%)	300 人 (93.5%)	13 人 (4.0%)
教育学部	218 人 (100%)	5 人 (2.3%)	207 人 (94.9%)	6 人 (2.8%)
現代日本社会学部	129 人 (100%)	0 人 (0%)	127 人 (98.4%)	2 人 (1.6%)
合計	668 人 (100%)	13 人 (1.9%)	634 人 (95.0%)	21 人 (3.1%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
文学部	345 人 (100%)	306 人 (88.7%)	16 人 (4.6%)	22 人 (6.4%)	1 人 (0.3%)
教育学部	224 人 (100%)	215 人 (96.0%)	3 人 (1.3%)	6 人 (2.7%)	0 人 (0.0%)
現代日本社会学部	139 人 (100%)	126 人 (90.6%)	3 人 (2.2%)	10 人 (7.2%)	0 人 (0.0%)
合計	708 人 (100%)	647 人 (91.4%)	22 人 (3.1%)	38 人 (5.4%)	1 人 (0.1%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

『シラバス作成要領』

シラバス作成要領において、授業目的、授業内容（事前・事後学習を含めた授業回数分の授業計画）、到達目標（卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連性）、授業形態（課題に対するフィードバックの方法等）、成績評価の方法、成績評価の基準、履修上の注意等について、当該年度に授業を担当し、シラバスを作成するすべての教員に明記することを求めている。加えて毎年12月の全学教授会時にも口頭で説明している。

授業担当教員が作成したシラバス記載内容における適切性について、担当教員以外の第三者（教育開発センター）がチェックし、3月末には大学ホームページで公表している。

『授業科目のシラバス』

<https://univision.kogakkan-u.ac.jp/syllabus/>

『履修要項』 『講義概要』

履修要項において、公式ホームページからシラバスを検索する方法を紹介し、シラバスの活用を推進している。新入生については、シラバスを抜粋した講義概要を作成し、履修指導及び初年次ゼミにおいて、シラバスを活用するように促している。

<https://www.kogakkan-u.ac.jp/support/rishu.php>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

『皇學館大学授業科目履修規程』

皇學館大学授業科目履修規程において、履修、成績評価、単位の認定、卒業・進級要件、他学部・他学科授業科目の履修等を規程化し、これに基づき、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定している。

<https://www.kogakkan-u.ac.jp/support/rishu.php>

『授業科目のシラバス一覧』

シラバスに記載された成績評価の方法・基準のとおり、各授業科目の学修成果の評価を行い、厳格かつ適正に単位授与又は履修認定を実施している。

<https://univision.kogakkan-u.ac.jp/syllabus/>

『履修要項 GPAの計算方法』

成績評価において、客観的な指標であるGPAを設定し、GPAの計算方法を履修要項に明記（公表）している。GPAは、教育実習・保育実習等の各種実習の履修条件や、退学勧告、副専攻制度の認定条件に活用している。

<https://www.kogakkan-u.ac.jp/support/rishu.php>

『成績の分布状況の把握』

教務委員会において、前年度の成績が確定後、全学年における成績の分布状況を検証し、各学科で把握している。

また、教務委員会では、入学後の学生の成績や留年・中退率等について追跡調査を行っている。

『皇學館大学ディプロマ・ポリシー』

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を大学・学部・学科毎に定め、公式ホームページ、履修要項で公表している。

<https://www.kogakkan-u.ac.jp/about/policy.php>

<https://www.kogakkan-u.ac.jp/support/rishu.php>

『学修成果の評価の方針（アセスメント・ポリシー）』

ディプロマ、カリキュラム、アドミッションの3つのポリシーに基づき、大学全体レベル（機関レベル）、学部・研究科レベル（教育課程レベル・授業科目レベル）の2段階で、学修成果を検証している。

<https://www.kogakkan-u.ac.jp/support/rishu.php>

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	神道学科	124 単位	○・無	48 単位
	国文学科	124 単位	○・無	48 単位
	国史学科	124 単位	○・無	48 単位
	コミュニケーション学科	124 単位	○・無	48 単位
教育学部	教育学科	124 単位	○・無	48 単位
現代日本社会学部	現代日本社会学科	124 単位	○・無	48 単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：履修要項 (P32～33) https://www.kogakkan-u.ac.jp/support/rishu.php		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法： https://www.kogakkan-u.ac.jp/support/edu_center.php https://www.kogakkan-u.ac.jp/about/pdf/disclosure/shikaku_shutoku.pdf		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.kogakkan-u.ac.jp/about/location.php>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
文学部	全学科	735,000 円	200,000 円	475,000 円	教育充実費、通年休学在籍料
教育学部	教育学科	735,000 円	200,000 円	545,000 円	教育充実費、通年休学在籍料
現代日本社会学部	現代日本社会学科	735,000 円	200,000 円	495,000 円	教育充実費、通年休学在籍料

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組	
(概要)	
本学では、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう学生支援に関する方針を定め、大学ホームページで学生に周知するとともに、社会に広く公開している。方針は、「基本方針」とそれに関連した「修学支援」「生活支援」「進路支援」の内容で構成される。 学生支援に関する方針 https://www.kogakkan-u.ac.jp/about/pdf/studentSupport.pdf 《学生支援に関する基本方針》 1. 各学部学科・専攻科・研究科が目標とする人材養成の実現に向けて、学生指導および福利厚生を充実させる。 2. 学生が自らの学修に専念することができる環境を整備する。 3. 学生の人的成長と自立を促すために支援する。 4. 学生が対等な個人として尊重される快適で安全な環境を提供する。 5. 学生一人ひとりが卒業後の進路を意識し、自らの資質向上を図るために支援する。	

《修学支援》 1. 学修を円滑にすすめるための学修相談・指導を、教職員が相互連携して実施する。 2. 図書館等の機能を充実させ、その適切な活用法の指導を通じて、中期行動計画に基づき学生の主体的な学修を支援する。 3. ICT（情報通信技術）を活用したシステムを構築し、提供することにより、授業に対する学生の事前・事後学習を促す。 4. 留年者および休・退学者については、その状況把握とデータ管理・分析を行うとともに、早期のケアを含めた具体的な対応策を講じる。
b. 進路選択に係る支援に関する取組 （概要） 《進路支援》 1. 学生一人ひとりのキャリア形成を支援するために、キャリア形成教育プログラムを正課内に設置するなど、系統的なキャリア形成教育を実施する。 2. 公務員・教員採用試験および各種資格取得の対策講座を開設し、学生のキャリア形成を支援するプログラムを提供する。 3. 学生の多様な進路に対応するため、「就職担当」「教職支援担当」「神職養成担当」の3つの部署に職員およびアドバイザーを配置し、卒業後までを見通した柔軟で的確なキャリア・サポートを行う。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組 （概要） 《生活支援》 1. 学生一人ひとりが、目的意識と自覚を持ち主体的に行動するよう、学生生活における活動を積極的に支援する。 2. 学生の健全な心身の維持増進を目的として、保健室・学生相談室・障がい学生支援室・ハラスメント相談窓口等を設け、教職員および各種専門スタッフを配置し、快適で安全な学生生活を送ることができるよう支援する。 3. 学生寮・奨学金制度の充実を図り、安定した学生生活を支援する。 4. 障がいを持つ学生が豊かな学生生活を過ごすことができるよう、組織的に支援する。 5. 留学生については、良好な住居環境の確保などを通じて、生活支援体制を整備する。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.kogakkan-u.ac.jp/kogakkan/>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F124310107174
学校名（〇〇大学 等）	皇學館大学
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人皇學館

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		304人（ ）人	296人（ ）人	328人（ ）人
内 訳	第Ⅰ区分	195人	181人	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅱ区分	65人	67人	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅲ区分	37人	34人	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅳ区分（理工農）	人	人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	7人	14人	
	区分外（多子世帯）	人	人	
家計急変による 支援対象者（年間）				一人（ ）人
合計（年間）				333人
（備考）				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	一人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当)	0人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	0人	人	人
計	一人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)、及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)		
	年間	前半期	後半期	
GPA等が下位4分の1	0人	人	人	

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)、及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)		
	年間	前半期	後半期	
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当)	0人	人	人	
GPA等が下位4分の1	一人	人	人	
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人	
計	一人	人	人	
(備考)				

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。